

「ラインの使い方」

ラインは、人と人がやりとりをするために多くの人に利用されているアプリだ。今では、小学生にも、スマホやタブレットを持つ子が多くなり、ラインやゲームで友達とやりとりをしている。わたしも、友達とラインを交わっている。いつも遊ぶや、何をして遊ぶかなどをラインでやりとりしている。はなれていても会話が出来るから、とても便利だと思う。

ある日、いつものようにラインをしていたら、「自分の知らない人をラインに書いて。」と送信がきた。そんなラインがきたのは初めてだったのでわたしは、その送信をつたがった。どうしていいかわからず二十分くらい返信できなかった。わたしは、「どうしてこんなメッセージを送ったのさろっ、どんな気持ちでこの言葉がでてしまったのさろっ」と、きもんに思った。そして、「そっついつのはやめた方がいいよ。」と返信した。なぜなら、もしわたしが知らない人を教えること、その人がどうなるか心配だったので、何よりその人がきまずくなるとか、思ったからだ。

わたしがラインの返信をしてからずっとまだラインがかえってこなかった。「オケ(OK)。」と、軽い気持ちでやったように感じる内容だった。わたしはびっくりした。そんな軽い気持ちでやっているとは思わなかった。もうこのやりとりが続かないと思うと安心したけれど、もしわたしが知らない人を教えていたら、どうなっていたのか、わくわくしてきた。「わたしはそっついつ人にはならないから、そっついつに思った。」

はゆるされない。人がきまずいことや人をバカにすることはダメだと思う。なががよくても、おとなでも、そんな人は信用されない。また、そのようなラインがきたらしっかりとダメだと伝えたい。そして、ちゃんと話し合おう、やっついつのこと、やっついつはいけないことがわかる人であってほしい。

今、日本だけでなく、世界中でラインのようにはなれていてもやりとりができるアプリが使われている。べんりなのはいいのだが、それによってきまずい人がいるのも事実だ。ニュースでたまにこんなことがながれてくる。「SNSでいやがらせをつけたために、自殺してしまった。」という内容だ。とく名だからといって、会ったこともない人だから悪口を言われたり、いやがらせをつけたりしているのだ。わたしは、とてもこわいと思う。たぶん、そんなことを送信している人たちは、軽い気持ちで送信しているのだと思う。送信された人がどんな気持ちになるのかを考えていないのだ。でも、そんな軽い気持ちでも、送信された人はどんなにきまずくなるのか。不安な気持ちになるにきまずい。わたしは、ラインを使っているけれど、使い方には気をつけようと思わなければならないから、そ、気をつけて利用しなければならぬと思う。わたしはまだ小学生だから、これからもつラインをする友だちがふえると思う。まちがっていることをしていたら、「やめた方がいいよ。」と伝える人になりたい。みんなが気持ちよくくわらしていきけるような世の中になついつはほつと強々思う。

(市内小学生の作文)

おおいた人権啓発広報誌

Let's キズナ

2003年度から毎年市内全戸に配布。

差別解消に向け絶賛発行中!

発行 2024年3月1日

お問い合わせ:ご意見・ご感想

大分市福祉保健部 人権・同和対策課

電話 097(537)5618

Let's

2024年3月1日号

大分市

キズナ

完全
保存版

人と人とのつながりを大切に...



2023大分市人権フォトコンテスト入選作品「大好き」

おいでよ! ヒューレおおいた (人権啓発センター)

J:COM ホルトホール大分1階、ヒューレおおいた(人権啓発センター)は、大人から子どもまで同和問題(部落差別)をはじめとするあらゆる人権問題について学んだり、体験したりすることができる、大分市における人権・同和教育、啓発の拠点施設です。

J:COM ホルトホール大分1階
ヒューレおおいた(人権啓発センター)

TEL:576-7593 FAX:544-5708
開館時間/午前9時~午後6時
休館日/毎月第2第4月曜日

(ただし、その日が休日に当たる場合は、その後の休日以外の日) 年末年始(12月28日~1月3日)



災害と人権

改めて考えよう 基本的な人権の尊重

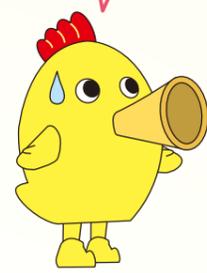
1 災害と…人権？

2024年(令和6年)1月1日、令和6年能登半島地震が発生しました。この大規模災害により、200名以上の尊い命が失われ、2万5千人以上の人々が避難生活を余儀なくされました。

このような災害が起こると、SNS等に誤った情報を投稿し、被災者の不安を煽るような行為も多く見られるようになります。また、避難所生活の中では、プライバシーの確保ができず、高齢者、障がい者、女性、外国人、子ども等への支援が行き届かないなど、人権における様々な課題が浮き彫りになります。こうしたことから、**災害と人権は密接に関わっている**と言えます。

いつ災害が起こるか分からないからといって、私たちができることは何でしょうか。

確かに、災害が起こるといろいろな困りごとが発生するよね



キッピー

2 災害時に起こる人権侵害

インターネット上にデマ情報の投稿・拡散

災害時には、多くの情報が錯綜し、誤った情報が拡散されやすくなっています。中には、真偽を確かめず、誤った情報を信じてしまい、悪意なく発信してしまう人もいます。

今回の災害時には、「石川県〇〇市 助けてください」などの投稿がX(旧ツイッター)で広がりましたが、同県内に〇〇市という市は存在しません。また、東日本大震災の際には、福島原子力発電所事故により被災地の人々は風評被害による人権侵害を受けました。誤った情報は、救援活動に支障をきたし、命を危険にさらしてしまいます。さらに、偏見や差別を助長し、被災者の不安を拡大してしまうことから、決して見過ごすことのできない問題なのです。



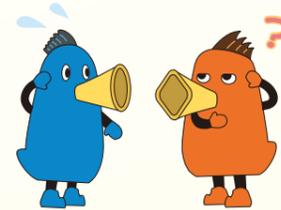
災害時に発生する様々な問題

不慣れた環境の中で長期間過ごすことへの不安やストレスを抱え、孤立化するなど、十分な支援や対応を受けられなくなります。

問題・困りごとの例

高齢者 障がい者	避難所等でバリアフリーが整備されず、一人で行動できない。
女性	避難所等でプライバシーの確保ができない。 性的被害が懸念される。
外国人	言葉が理解出来ず、救援物資配布等の告知が分からない。
子ども	学校等の休校により、学習機会が失われてしまう。

飲料水等
物資配布
〇〇時から



ズータン ナビー

3 私たちにもできることは…

災害は、いつどこで起こるか分かりません。私たちは能登半島地震によって、当たり前前の生活が一瞬で消えてしまう災害の恐ろしさと、尊い命の大切さを目の当たりにし、一人ひとりが平等に持っている「**基本的な人権の尊重**」について考えさせられたのではないのでしょうか。

災害に襲われれば、誰も冷静な判断や行動ができにくくなります。だからこそ、不確かな情報に踊らされることのないようSNSやインターネット上での情報の真偽を見極め、冷静に判断することができる力を身に付ける必要があります。また、高齢者、障がい者、女性、外国人、子どもなど、一人ひとりの人権を尊重することによって、誰もが安心して生活が送れるよう、相手のことを思い行動することが大切です。



日頃から助け合い人権について学ぶことが大切だね。

コラム

世界各地では…

戦争や紛争が後を絶ちません。イスラエルとハマスの対立や、ロシアによるウクライナ侵攻も未だ続いており、尊い命が失われ続けています。戦争や紛争によって、幼い子ども、女性などそこに暮らす人々の命が脅かされ、犠牲となっています。人々の生活を二変させ、脅かす戦争は、「最大の人権侵害」であることを、私たちは認識し、声を上げ続け、これ以上犠牲者が出ないことを願い、「日も早く終結することを祈るばかりです。今回の戦争により、私たちは改めて、命の尊さ、平和の大切さを感じたのではないのでしょうか。しかし、毎日の身近なニュースの中でも、事件や事故により命が犠牲となっていることや、いわれない差別やいじめ、誹謗中傷により自ら命を絶ってしまうなど、悲しいニュースが連日流れています。

人の命はかけがえのないものであり、奪われてもよい命はこの世に一つもありません。今こそ、私たちは「**命の重み**」について考える必要があります。戦争のない明るい未来のために、日頃から、**思いやりの心と支え合いの気持ちを持ち続ける**ことが大切です。

NO WAR



おいた市人権イメージキャラクター「キズナーズ」